

総務部アクションプラン

(1) 収益の安定化

- ・ 一般会員数の拡大により自己財源を安定的に確保する
- ・ 協賛企業・団体へのアプローチを強化し、スポンサー・広告料収入の拡大を図る
- ・ 各種助成金、補助金の新規申請と活用により、事業の収支改善につなげる
- ・ JOC の TEAM JAPAN マーケティングとの連携をはかり、新しい財源にする

(2) 情報発信力の強化

- ・ ホームページ、SNS を最大限活用し、タイムリーで有用な情報発信を行う
- ・ スポーツ報道各社への積極的な情報提供により、アーチェリー競技の認知度を高める
- ・ JOC と広報活動で連携し、スポーツ愛好者への接点を拡大する
- ・ 新たな情報ツールを作り、加盟団体との情報共有力を高め、業務の効率化をはかる

(3) ガバナンス強化とコンプライアンス遵守

- ・ 外部人材や専門家を活用し、通報窓口制度の強化と透明性のある運営を行う
- ・ 役職員、加盟団体、選手・指導者へのコンプライアンス教育を継続的に実施する

(4) 安心・安全なスポーツ活動の推進

- ・ 安全に配慮した競技会の実施
- ・ 加盟団体を含めた事故の未然防止と、事故発生時の即応体制を構築する
- ・ 暴力、暴言、その他ハラスメントをなくすための教育、啓蒙活動を継続して実施する
- ・ アスリートが安心して競技に打ち込める環境づくりへの取組みを行う

(5) 社会性貢献活動

- ・ スポーツにおける SDG's への取組みにより、組織の社会性を醸成する
- ・ アスリート委員会と連携して社会貢献活動を行い、アーチェリーのプレゼンスを高める

国際部アクションプラン

【国際部ビジョン】

日本のアーチェリーコミュニティが国際的に高い価値を持ち、世界から認知・評価を得ている状態を作る

競技力のみならず、先進的な取り組みを通じて日本のアーチェリーコミュニティが広く認知され、高い評価・価値を有している状態を目指す

【アクションプラン】

(1) 国際部の機能化

- ・ パリ 2024 オリンピック・パラリンピックを通じた世界アーチェリー連盟との関係性構築の推進
- ・ 国内での世界アーチェリー連盟の方針・関連情報の共有の迅速化
- ・ 世界アーチェリー連盟の一員として加盟各国との戦略的互惠関係の構築
- ・ 世界アーチェリー連盟・アジアアーチェリー連盟の理事・委員会ポスト獲得と候補者の育成
- ・ 将来的な国際大会招致に向けた活動
- ・ 国際審判員 (IJ, IJC, YJ, CJ) の派遣・育成支援
- ・ 国内における国際部の認知向上に向けた施策の実施
- ・ 各種国際業務のマニュアル化

(2) 日本で開催される国際大会の支援・調整

以下 2 大会の成功に向けた支援

- ・ 第 20 回アジア競技大会 2026 年 愛知県
- ・ 関西ワールドマスタースゲームズ 2027 鳥取県

強化部アクションプラン

【強化部ビジョン】

- ・ すべてのカテゴリーにおける主要国際大会で日本選手が常にメダルを獲得しており、そのための強化・育成システムが構築できている。
- ・ 競技力のみならず人間力の高いアスリートを育成できている、現役として活動している期間中はもちろんのこと、競技引退後も多くの人のお手本として社会の中で活躍している。

【2028年までの目標】

- ・ オリンピック競技大会など主要国際大会において、継続的にメダルを獲得し続ける。

【目標達成のための戦略】

1. 選手個人の実力アップと本番発揮力の高い選手の育成・選考
2. チーム内競争の活性化とアンダーカテゴリーの早期戦力化
3. NTC、JISSの積極的な活用
4. 強化事業推進のための資金力の強化

【アクションプラン】

- (1) ナショナルチーム選考会、主要国際大会に向けての選考会をより緊張感を持たせた実施方法にする。
 - ・ 予選ラウンドで足切りラインを設ける。
 - ・ 予選ラウンドで決定した順位をもとにしたトーナメント戦を導入する。
 - ・ 複数回の選考会を実施する。
 - ・ メディアの協力のもとで、オンラインを最大限活用し、リアルタイムで選考会の様子を配信したり、観客を入れて「見せる競技化」し、「見られている」という緊張感を作り出す。
- (2) 韓国との合同合宿を実施する。
 - ・ 韓国光州広域市（東京大会では、女子メダル3冠の選手を輩出）との強化提携の協定に基づき、韓国トップ選手との合同合宿や競技会を行う。日本の全カテゴリーのナショナルチームが合同で強化合宿を行うことでチーム内の競争を活性化できるとともに、強豪国韓国のトップ選手との試合を経験することで、特に国際経験が不足している若手選手の経験値を積み上げる。
 - ・ 上記強化合宿とは別にエリートアカデミー生向けに光州広域市での強化合宿の機会を設ける。
- (3) NTC、JISS、HPS事業を活用し、映像・バイメカ・心理専門スタッフによるサポートを継続する。
 - ・ 全てのカテゴリーのナショナルチームの選手がNTCを使用できる環境を整備する。また主要国際大会に向けての強化合宿をNTCで行い、個人の実力アップと団体戦で

の勝利に向けたチーム力アップを図る。強化合宿中に、競技力と人間力向上のための研修プログラムを実施する。

- ・ HPS 事業を活用し（協力を得られる場合）、映像、バイメカ、心理などの専門家のサポートや協力を得ながら、科学的な観点からのアプローチによる強化を図る。例えば、映像解析によるシューティング技術の向上（ハイスピードカメラを活用したリアルタイムフィードバックなど）を図ったり、希望する選手に対して心理専門家によるメンタルサポートを行う。
- (4) 財政基盤整備のための取り組みを行う。
- ・ 連盟が取り組む様々な事業（選考会など）を積極的に配信したり、アーチェリーを魅力あるコンテンツとするための広報専門チームを立ち上げ、スポンサー獲得につなげる。
 - ・ 新たな試み（例えば、大手企業でのマーケティング経験豊富な人材にコンサルティングを依頼し、成果報酬制でスポンサー獲得を依頼するなど）を行うことで、スポンサー獲得のための知見を積み上げる。
 - ・ 「見せる競技化」した試合を有料化し、入場料収入を得る。
 - ・ クラウドファンディングを活用した資金調達を行う。
 - ・ 試合の運営方法や人繰りを工夫し、1事業あたりのコストを削減する。

【育成・強化の基本方針】

1. 新しいルールに対応できるシューティング技術を備えた選手を育成する。
ドローイングからフォロースルーまでの一連の動作をエイミングと同時並行的によりどみなくスムーズに行い、早く、リズムよく行射出来る選手を育成する。エリートアカデミーやナショナルチームの指導実績があるコーチや強豪チームコーチなどとも連携しながら、これらの指導技術を一貫指導の基礎スキルと位置づけ、講習会などを通じて、所属チームの指導者に情報提供し、選手のシューティングスキルの底上げを図る。
2. エリートアカデミー生（出身者含む）の戦略的強化を継続する。
エリートアカデミー卒業後も従来通り NTC を拠点として練習し、継続した指導を受けられる環境を整備する。

【目標達成のために必要なアスリートの要素・資質（目指すアスリートの姿）】

1. フィジカル
 - ・ 悪条件でも弓をコントロールできるパワー（筋力・体力）がある。
 - ・ U21 ナショナルチームについては、男子 46 ポンド以上、女子 40 ポンド以上の弓をコントロールできる。
2. テクニカル
 - ・ 一連の動作を 4 秒以内に簡潔できるスピードがある（セット、セットアップを確実にを行い、エイミングを短くフォロースルーまでをしっかりと行うことができる）。
 - ・ アンカーに入った時点でサイトピンがゴールドにあるフォームが完成している。

- ・ 力まずに流れの中で早くスムーズにクリッカーを落とすことができるフォーム（コンスタントモーション）を実践している。

- ・ 弓具のチューニングについての正しい技術を学び、身につけている。

3. メンタル

- ・ セルフアウェアネスが高く（自分の強み、克服すべき課題、自分を不安にさせている要素などに気づくことができる）、セルフコントロールができる（必要に応じて切り替える、前向きに取り組む、リスク回避をする、他派の協力なども得ながら、課題解決に向けての糸口を自ら見つけることができる）。
- ・ 自分の考えを持ち、適切な目標設定と目標達成のための取り組みを継続することができる。
- ・ 自己肯定感と自己効力感が高い。

【目標達成のために必要なコーチやスタッフの要素・資質（目指す指導者の姿）】

1. 専門知識

- ・ 選手の発育発達に応じたフィジカル強化やコーディネーション能力向上のためのメニューを作成することができる。必要に応じて、専門家に情報を伝えてメニューを完成させることができる。
- ・ 目標設定を適切に行い、目標達成、競技力向上のための練習メニューを作成することができる。
- ・ 骨格や筋肉のつき方など選手の個性を見ながら、正しいシューティングフォームを身につけさせることができる。
- ・ 選手のフォームを観察し、また、選手の内的感覚をコミュニケーションによって引き出し、何が課題になっているのかを理解することができる。その上で、必要なアドバイスをしながら、フォームを修正することができる。
- ・ 弓具についての専門的な知識を持ち、高いチューニング技術を持っている。
- ・ 試合中、風の動きなどを読み、適切にアドバイスすることができる。
- ・ 他国の情報、最新のトレンドなどについて理解している（そのための情報収集力や情報収集のための人脈を持つ）。

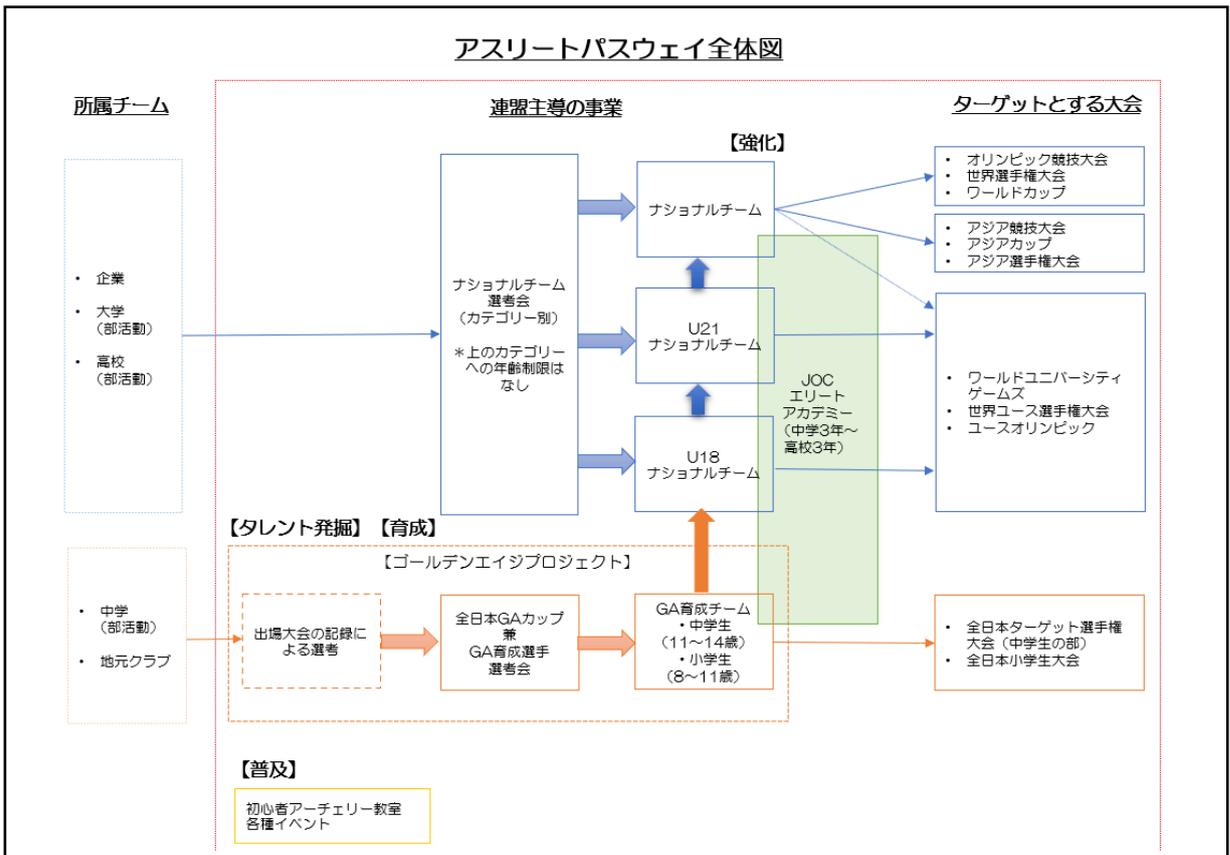
2. コミュニケーション力・思考力

- ・ 選手の状態（コンディション、競技技術、感情面など）を引き出し理解することができる（傾聴や質問）。
- ・ 選手のやる気や主体性を引き出すことができる（傾聴や質問）。
- ・ 選手のパフォーマンスを正しく評価し、適切なフィードバックをすることができる（評価とフィードバック）。
- ・ 選手に自信を持たせたり、切り替えるための言葉をかけることができる（リフレーミング）。

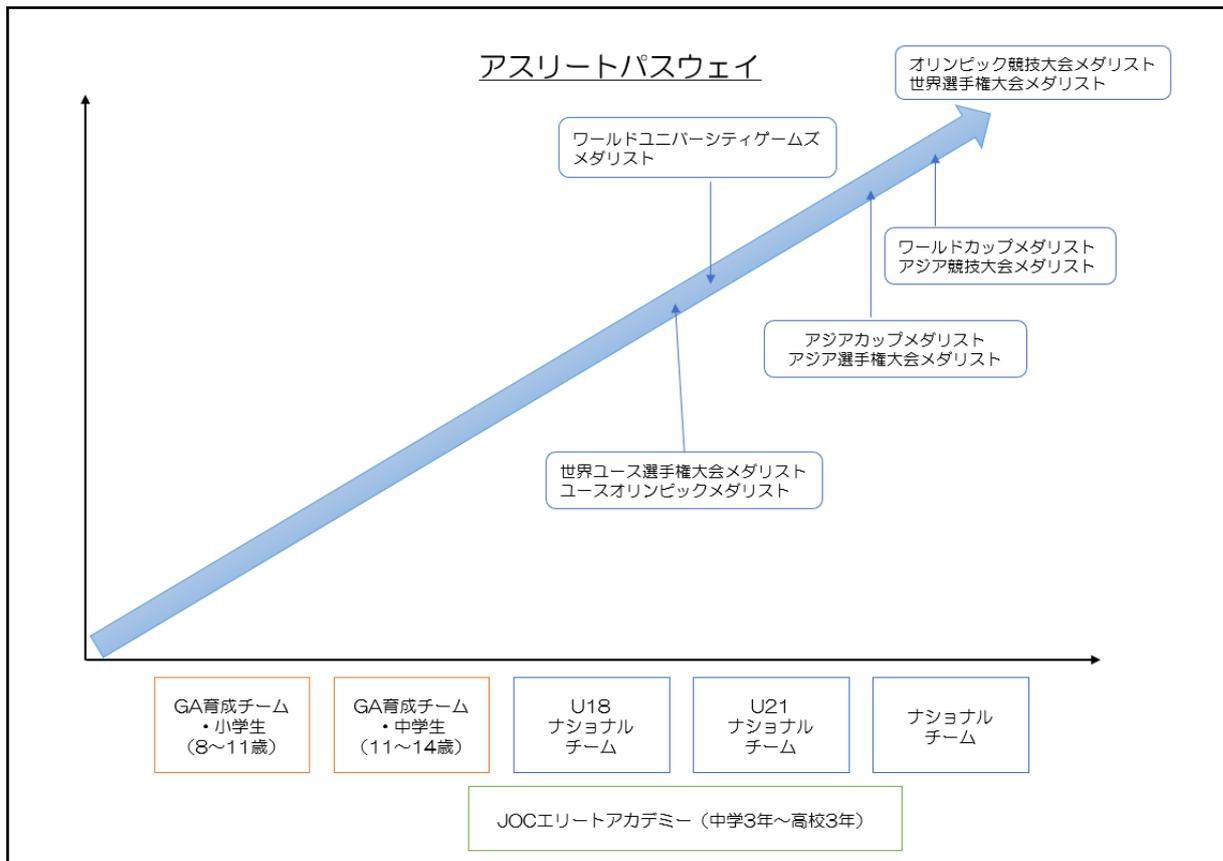
- 選手に対して、練習の目的や意図をきちんと伝えることができる（目的の共有）。
 - ステークホルダーとの関係構築のための高いコミュニケーション力を持っている（言うべきことを適切に伝えるためのアサーティブネス、相手の立場を理解する共感力や傾聴、質問力、最善の策を導く問題解決力）。
3. セルフマネジメント力
- 自分自身の感情をコントロールすることができる。
 - 自らの成長のために学び続けることができる。また、多様な他者から（時には選手からも）学び、自己変容することができる。
 - 選手を常に中心において発想することができる（アスリートセンタードの発想で考えることができる）。
 - 自らの課題を明らかにするためにリフレクションし、次に何を行うのかを考え実践することができる。

【目標達成のためのアスリートパスウェイ】

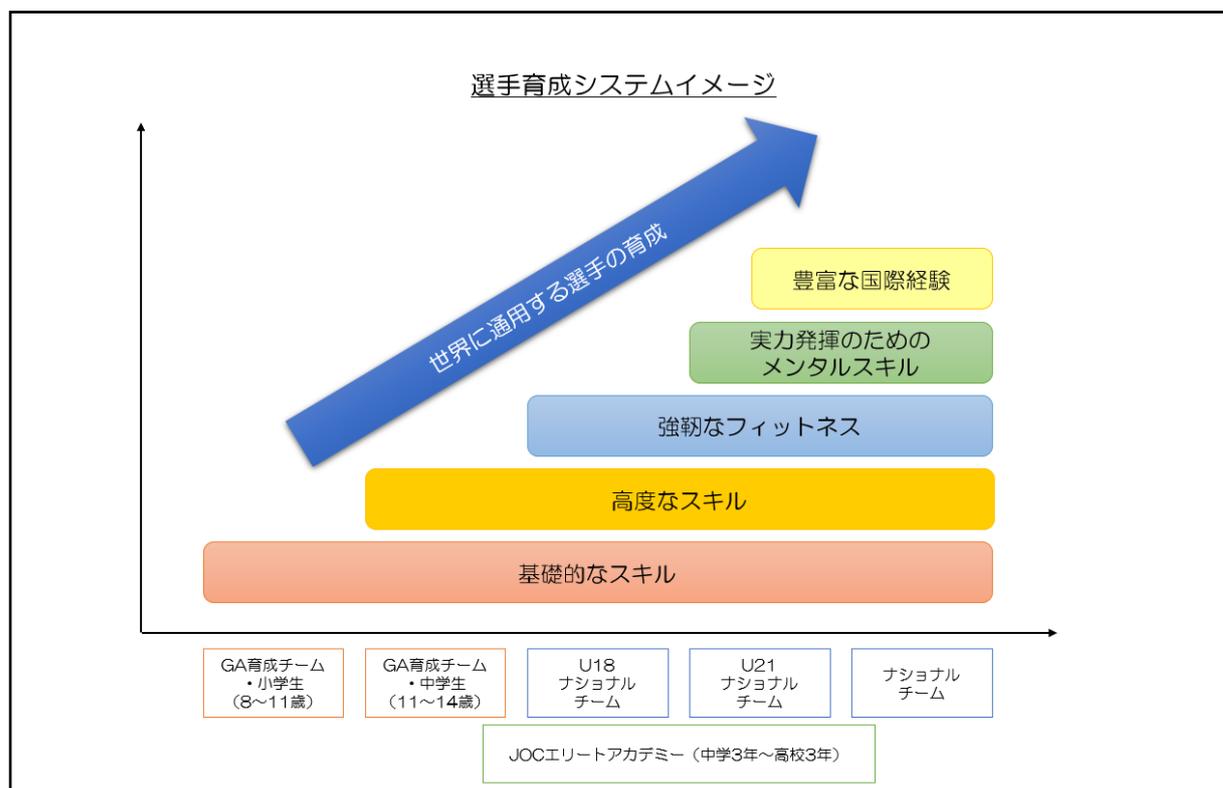
(1) アスリートパスウェイ全体図



(2) アスリートパスウェイ



(3) 選手育成システムイメージ



競技部アクションプラン

【目指す姿】

- (1) 多様な人や団体が参加できる競技会やイベント機会の創出
- (2) 各加盟団体主管の競技会レベルの向上（競技会運営レベルの向上と均一化）
- (3) 選手の目的に応じた競技会コンセプトの明確化と競技会毎の独立採算の実現
- (4) 本連盟主催競技会の見せる競技会への実現（競技の視聴コンテンツの提供）

【基本方針】

今後の施策について以下の3段階で実施

- ① 第1フェーズ（3年以内）
 - ・ 内部制度や既存競技会の見直しと、新たな競技会の実施に向けた準備を行う
- ② 第2フェーズ（4～7年後）
 - ・ 新たな枠組みで運営を実施し、運営水準向上のための改善を継続
- ③ 第3フェーズ（8年目以降）
 - ・ 運営規模の拡大と自立運営可能な基盤強化を図る

【基本戦略】

- (1) 多様な人や団体が参加できる競技会やイベント機会の創出
 - ・ 普及部と協働で主催競技会の見直しを行い、年齢や性別、障がいの有無等に関わらず、全ての競技者が参画できるイベントのあり方を検討する
 - ・ 普及部と協働で若年層の競技会参加のあり方を検討する
 - ・ 国際交流競技会を開催することにより、選手だけでなく競技会運営役員の相互交流も実現させる
- (2) 各加盟団体の運営力の向上と競技運営の標準化
 - ・ ジャッジガイドや審判員育成講習会等コンテンツの充実と審判員スキルの向上
 - ・ ジェンダー平等の考え方から女性審判員の増員、ならびに競技会の責任ある役職への起用
 - ・ DOSや記録に関する運営ガイドラインの策定
 - ・ 競技会運営に関する情報共有コミュニティの形成
- (3) 競技会の独立採算の実現
 - ・ 競技会のコンセプト設定と採算が取れる収支計画の策定
 - ・ 競技会毎の収支検証と継続的なコスト抑制のための仕組みづくり
 - ・ 競技運営の一部外部委託化により、新たな競技会の構築とコスト抑制

(4) 全日本主催競技会の再構築

- ・ 競技会の特色に合わせたライブ配信を行い、1万人以上の視聴者の獲得を目指す
- ・ 競技会の準備・実施におけるコンテンツのデジタル化を推進し、より多くの人へリアルに届ける仕組みを構築する

【アクションプラン】

(1) 多様な人や団体が参加できる競技会やイベント機会を創出する

- ・ 年齢や性別、障がいの有無等に関わらず、多様な選手の活躍の場を創出するため、参加者のステージに応じた競技会となるようコンセプトを明確にする
- ・ 普及部と連携し、本連盟主催の各競技会の役割を再考し、中央競技団体として開催すべき競技会のあり方や実施方法を検討する
- ・ 若年層に対応した競技会について事業内容を検討する
- ・ 2026年のアジア競技大会ならびにワールドマスターズゲームズにて国際競技会を自ら開催できるノウハウを継承する
- ・ 本連盟全体が各部の垣根を越えて連携し、競技運営力の向上を図る

(2) 各加盟団体の運営力の向上と競技運営の標準化

- ・ 日本版のジャッジガイドブックを作成し、審判業務と競技規則解釈の標準化を図るとともに、審判員育成に伴う講習会のコンテンツを充実し、全国的に均一レベルの審判員の育成が可能な仕組みを構築する
- ・ 1級公認審判員の認定基準と実務研修の実施基準・認定基準を明文化し、公平な審査による資格認定を推進する
- ・ ジェンダー平等と多様な問題に柔軟に対応するため、女性審判員の育成を図るとともに、競技会の責任ある役職への起用を推進する
- ・ 指導者・審判ルール研修会やその他の研修会を通じて、コンプライアンスに関する指導を行い、暴力や不適切な指導の根絶を図る
- ・ 様々なデジタル機器や集計システムを活用するため、DOSや記録に対する運営ガイドラインを策定し、各競技団体の運営において金銭的・人的負担軽減を図る
- ・ 審判業務や競技運営に関する情報を共有し、現場の関係者による自発的かつ継続的な運用改善を促すため、運営に関するコミュニティを形成し、関係者にて意見交換可能な仕組みを構築する
- ・ ianseo と連携可能な会員管理システムおよび競技会管理システムを構築することにより、各加盟団体の業務負担の削減を図るとともに、チェック機能の自動化による本連盟のチェック業務の負担を低減する

(3) 競技会の独立採算の実現

- ・ 競技会毎にコンセプトを明確にし、これに応じたスポンサーの獲得や、助成制度を活用するなど、単独で採算が取れる収支計画を策定する
- ・ 利用する競技備品に加え、消耗品・半耐久材についても台帳管理を行い、適切に資材が運用されているかを確認し、メンテナンスや補充等を計画的に実施する

(4) 本連盟主催競技会の再構築

- ・ 見せる競技会を意識した競技進行を行えるように運営改善を図る
- ・ 外部業者を活用し、映像配信やデジタル化に向けた取り組みの推進や運営役員の負担の軽減を図る
- ・ 競技会の開催地区の見直しを行い、普及部と協働で開催地域とコラボして地域活性化に関するイベントを開催する

普及部アクションプラン

【目指す姿】

- (1) 指導者育成制度の確立と制度に則った有資格者による指導の推進
- (2) アーチェリーコミュニティの形成と多様な活動の推進
- (3) アーチェリーに関する様々な活動に対する個人または企業サポーターの獲得
- (4) 多様な人や団体が参加できる機会の創出

【基本方針】

今後の施策については、以下の3段階で実施する

①第1フェーズ（3年以内）

- ・ 内部制度や既存イベントの見直しと、新たな取り組みに向けた準備

②第2フェーズ（4～7年後）

- ・ 新たな枠組みでの運営の実施・改善と、運営の定着化とさらなる改善を図る

③第3フェーズ（8年目以降）

- ・ 運営規模の拡大と、次期中長期計画を見据えたビジョンづくり

【基本戦略】

(1) 指導者育成制度の確立と制度に則した有資格者による指導の推進

- ・ 指導者育成制度の整備と、制度に則した資格認定の運用を実施
- ・ 地域指導者に対する資格制度の周知と資格取得の推進
- ・ 地域で指導者コミュニティを形成し、積極的な交流や情報交換を行える仕組みの構築

(2) アーチェリーコミュニティの形成と多様な活動の推進

- ・ 地域の様々なアーチャーが気軽に交流・情報交換できる場と仕組みの構築
- ・ アーチェリーを通じた地域等の活性化の実現のため、公共施設や団体、スポーツクラブなどと連携・協力した、啓発活動の実施と体験プログラムの提供
- ・ 本連盟主催競技会においてスポーツツーリズムを活用した、地域との協働によるイベントの開催や、地域イベントへの参加、コラボレーションなどの実現

(3) アーチェリーに関する様々な活動に対する個人または企業サポーターの獲得

- ・ 競技部と協働で本連盟主催競技会のライブ配信に合わせてデジタルコンテンツを活用し「観る」楽しさの提供を実現
- ・ サポーター企業や個人がアーチェリーを通してスポーツの楽しさだけでなく、様々な価値を享受できる仕組みの構築

(4) 多様な人や団体が参加できる機会の創出

- ・ 年齢や性別、障がいの有無等に関わらず全ての競技者が参画できるイベント等のあり方を検討する
- ・ ジュニアや初心者が気軽に安全にアーチェリーを楽しめる場の提供や、新たな競技スタイルについて検討する

【アクションプラン】

(1) 指導者育成制度の確立と制度に則った有資格者による指導の推進

- ・ N F 指導者育成委員会にて、新制度に則した育成プログラムの作成
- ・ 新制度によるスタートコーチ資格の取得を推進するとともに、全国各地区にて育成プログラムに則した講習会を実施し、その他コーチ資格を含め、年間100人以上の新規資格取得を目指す
- ・ N F 指導者育成委員会を中心に、各地区で指導者のコミュニティの形成を推進し、積極的な情報交換の場を提供する
- ・ 本連盟主催競技会等へ出場する選手の監督・コーチについて、コーチ資格義務化を段階的に実現する

(2) アーチェリーコミュニティの形成とそれによる多様な活動の推進

- ・ SNS 等のデジタルコンテンツを活用し、アーチェリーに関係する全ての人が気軽に情報交換できる仕組みを提供する
- ・ コンテンツを通じて様々な交流を創出し、他スポーツ等との融合の可能性を模索する
- ・ アーチェリーを通じて公共の施設や団体と連携し、教室活動や地域等の交流イベントによる活性化プログラムを推進する
- ・ 若年層やシルバー層を対象とした、アーチェリーによる健康増進プログラムを創出する
- ・ 本連盟主催競技会や地域イベントにおけるスポーツツーリズムとの協働
- ・ 上記のような取り組みによってさらなる会員数の確保を目指す

(3) アーチェリーに関する様々な活動に対する個人または企業サポーターの獲得

- ・ 動画配信やデジタル技術の活用、ファンのコミュニティ形成など「観る側」に視点を置いたコンテンツ提供を実現する
- ・ サポーター企業が個人やチームを応援できる基盤を整備し、多くの企業参入をはかる
- ・ 個人サポーターが個人やチームを応援するだけでなく、競技者と共に競技を楽しむことができるコンテンツ等を考案する

(4) 多様な人や団体が参加できる機会の創出

- ・ 若年層に対応したイベントや教室など、多くの選手を集め、ともに楽しむための事業内容を検討する
- ・ ジュニアや初心者が気軽に安全に楽しめる機会を創出し、各地区で手軽に実施できる環境づくりを推進する